

三里塚・ジェット闘争貫徹「国鉄35万人体制」粉碎!

スト前夜集会 津田沼-350 佐倉-260 が結集

またまた当局に保護され ネットライキをきびだ 動労本部

賃金抑制・官民分断・ストなし策動粉砕の四月決戦闘争は、昨年ひき続いて物価上昇率にもみたくない一四・四八円(七・三八%)という低額回答で終息した。この低額回答は、もとより春闘ストライキそのものを圧殺・掃し国家財政危機・国鉄経営危機の下では労働組合の経済ストすらも容認できない、労働者は黙々と働けという超反動攻撃である。

われわれは、かかる政府・当局の手の掌でおどらされることを断固として拒否し、三月ジェット決戦ストの意義と成果をしっかりとふまえ、今後も闘う路線を堅持し闘い抜いていかなければならない。

佐倉拠点の闘い

二二日、佐倉拠点の闘いは、昨年四・五津田沼襲撃につづいた動労「本部」スト破り集団による拠点つぶしともいうべき敵対行為を粉砕した区間の勝利を引き継いで、夕刻スト前夜決起集会が開催された。地元佐倉支部をはじめとする成田、蘇我、木更津の組合員は、「本部」反動分子許すまじ「スト貫徹」の意志を固く胸にして集会開会前には二六〇名もの数が結集した。

庁舎玄関前で行われた集会は、林本部執行委員の司会のもと、冒頭、布施副委員長より本部を代表してのあいさつをかねた基調報告を受けた。

つづいて日暮成田支部長、佐藤蘇我調支部長、白石木更津調支部長、堀口佐倉支部長、長田本部副青年部長の順で決意表明が行われた。それぞれ決意表明は、三月ジェット決戦闘争でかちとった成果にふまえた確信溢れる内容が語られた。

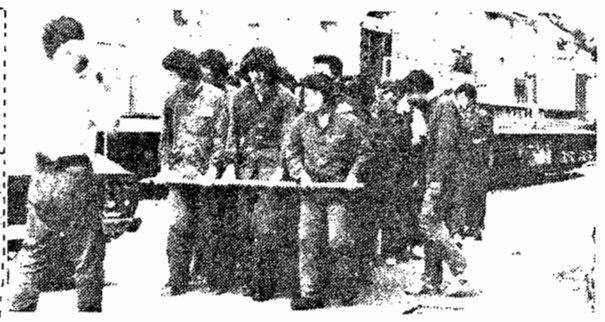
闘いの気運に満ち溢れた集会の圧巻は、全参加者による機関区庁舎包囲のデモだ。このデモは、機関区裏側の公道上を堂々と行進し、「春闘勝利」「処分粉砕」のかけ声高く貫徹された。

集会終了後、但ちに佐倉支部全組合員は職場ろ城の闘いに突入したのである。

津田沼拠点の闘い

三・六全面ストを闘い抜き息つくひまもなく再び決起した津田沼支部には、千葉運転区、幕張支部からの動員者も含めて三五〇名の大結集のもと集会一デモが終始戦闘的にうちぬかれた。

集会は、庁舎玄関前通路を埋めつくし線路の中にまで溢れてしまいう状況の中で、中庭での国労四〇〇の仲間と同時併行的に開催された。



右：土屋一派のスト破り討伐、左：足利、意気高く構内デモを貫徹 (4/22 佐倉)



下：津田沼電車区には三五〇名の参加、決意表明は片岡支部長

片岡津田沼支部長、桜沢千転書記長、真藤幕張調支部長、中野本部書記長の力強いあいさつと決意表明が行われた。

連帯のあいさつには、社会党菅井船橋市議、山野井習志野市議、松本船橋総支部書記長の三氏がかけつけ、代表して菅井氏から「三月ジェットストライキは労働組合として素晴らしい闘いであった。不当処分抗議、動労千葉支援の闘いを地域からつくり出す」と心暖まるあいさつを受けた。

その後、四月、日人社の新組合員紹介が行われ万らいの拍手で迎えられた。

集会後のデモは、三月決戦ストライキをほうふつとさせる熱気にみちたものとして貫徹された。国労の若い仲間達は、このデモをみて「さすが動労千葉だ」と感嘆せしめたのである。

この夜、津田沼・佐倉の「本部」派組合員はもとより役員は、職場ろろ城を放棄し出退勤時の当局による保護を要請し、三信ビル、旅館でそれぞれ「ネットライキ」をきめこんだのであった。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!